



支部便り

編集・発行 公益財団法人 AFS 日本協会岩手支部
支 部 長 松 田 文 平
事務局 〒028-3452
岩手県紫波郡紫波町片寄字四ツ屋300
TEL/FAX 019-673-6607
メール: info-iwate@afs.or.jp
http://www2.afs.or.jp/tohoku/morioka/
印 刷 (有)九戸印刷 (久慈市)

AFS いわて

みちのく応援奨学金 募集最終年

AFS 第61期年間派遣選考 6月16日(日) 盛岡会場で実施

被災地対象「みちのく応援奨学金」は今年度募集で締め切りとなる。被災県限定の「みちのく応援奨学金」は、1年間の留学費用のほぼ全額を支援するもので、岩手県内から過去2年間で7名が合格し、現在、留学中又は留学予定である。高校生留学を希望する県内の中高生にとって、海外留学実現の大きな後押しとなっている。

また、AFS 岩手支部では海外からの高校留学生のホストファミリーを探している。留学生を家庭で受け入れ、生活を共にすることにより、さまざまな国の高校生をとおして家族全員がグローバルマインドを身につけている例が多く見られる。現在、8月下旬からのホストファミリーを募集している。

AFS 年間派遣プログラム (第60期)

派遣生 3名決定

マレーシア派遣 (1月出発)

阿 部 このみ さん 盛岡市立高校

アメリカ派遣 (8月出発)

諏 訪 雅 美 さん 盛岡第一高校

アメリカ派遣 (8月出発)

中 野 雄 貴 君 盛岡第一高校

謝 謝

昨年に引き続き、元AFS 留学生 (第9期) のYさんから留学支援金として多額のご寄付がありました。

また、JA全農いわてからホストファミリー支援のため、県産米ひとめぼれ1年分のご寄付をいただきました。

ここに心から感謝の意を表します。

マレーシア派遣生

藤井理子 (盛岡第一高校)

私がマレーシアから帰国してから、早いもので3ヶ月が経ちました。新しい学年に配属され、新しい友達もでき、私の周りのすべてが"日常"に戻っています。しかし、私の心はまだマレーシアにあるようで、とっさにマレー語や英語で返答したり、マレーシアでの写真を見ると友達やホストファミリー(HF)が恋しくて堪らなくなったりします。ただ、マレーシアで過ごした12ヶ月は楽しいときばかりではありませんでした。手で食べる辛い食事、冷水のシャワー、紙を使わないトイレ…。同じアジアに位置しながら全てのものが日本とは違い、ホームシックになったことも何度もありました。けれども今こうして自分の留学を振り返ってみると、悩んだことさえも有意義で素晴らしいものであったと心から思うことが出来ます。

そんな私の留学の中で感銘を受けたものの一つに"マレーシア人の多文化主義への姿勢"があります。マレーシアはマレー人だけでなく中国人やインド人も多く暮らしている多民族国家であり、ほぼ日本人だけで人口構成されている日本とは異なります。そ

んなマレーシアの人達は、お互いに違った文化や宗教を尊敬、理解し合いながら共に1つの国家を創っています。幸運なことに私は、イスラム教・ヒンドゥー教・仏教・キリスト教のお家にステイする機会に恵まれましたが、どのHFも私にそれぞれの文化を精一杯見せてくれました。イスラム教徒のHFと共に1ヶ月断食したこと、ヒンドゥー教徒のHFと毎食のようにカレーを作って食べたこと、仏教徒のHFと十五夜のお祭りに行ったこと、キリスト教徒のHFと初めて教会に行き、クリスマスを夜通しお祝いしたこと…。全てがかけがえのない、一生忘れることができないであろう思い出です。

この留学を通して培ったことをこれからに生かし、支えて下さった全ての方々への感謝を社会に還元していきたいと思います。



アメリカ留学に向けて

アメリカ留学まであと少しとなりました。現地の生活により早く順応できるように、支部活動やオリエンテーションを通して、これから留学する仲間や、過去に留学した先輩からどのような準備をすべきか教わり、それを実践しています。それでもまだ「留学する」という実感があまり湧かず、向こうでの生活がとても不安ですが、この貴重な経験を無駄にしないように全力で臨んで行きたいです。

特に今回の留学は被災地の留学生のためのジャパンソサエティーからの奨学金で成り立っているものですから、現地では責任を持って震

盛岡第一高校 1年 中野雄貴

災のこと、そして震災の際にアメリカから援助してもらったことに対する感謝の気持ちをしっかり伝えたいです。

アメリカでは、誰かに話しかけられるのを待つ、といった受け身の態度ではなく、自ら積極的に関わろうとすることを頑張りたいです。それが震災のことや日本のことを伝える上で大事だと思えますし、より多くの友達を作るための第一歩になると思っています。

この留学を支えてくれる多くの人たちに感謝し、一生懸命頑張ってきます！

ムック (ラオス、2010年受入)

H S : 盛岡白百合学園 HF : 吉水香教様



皆さん、今日は！お元気ですか？私は元気ですよ（^▽^）。私はNational University of Laosで勉強しています（大学二年生です）。あと二年間ぐらいで卒業する予定です。私の卒業式にAFS staffの皆さん来てね。私は毎日大学に通うのに30分ぐらいかかります（時々雨が降らない日はbikeで通います）。やっぱり長い時間で学校に通うと言ったら、私はいつも日本を思い出しますよ。日本にいた時は、1時間30分で学校へ通いました。本当に長かったですが、けっこうな経験でしたよね。毎日朝起きると自転車に乗って、次は電車に乗って、最後はまた

school bus に乗りました。何かすごいtransportationだと思いました。

今、ラオスではすごく暑いんです。こんなに暑いなら私は日本の雪が懐かしいですよ。日本で初めて雪の上を歩きました。何回もころびました（痛かった～）（――；）。でも、skiをした時は本当に楽しかったですから、そのせいで雪を好きになりました（^▽^）。

私は色んな所に行って経験しましたが、私にとって日本は最高です。日本で学んだ事は、自分の生活や勉強のためには、とてもusefulです。日本に留学して来たことは、私にとっては一番嬉しいです。また、日本に留学したいです。できれば絶対に盛岡に行きます。ではまた今度ね。お元気でいらして下さい。

＼(^o^)/Bye bye (miss you all) ——
2010年ラオスからのAFS生、
Hongdamouk Kongsapより

ホストファミリーより

チャレンジ！

ホストファミリー 中村昌子
(花巻市)

「母さん、やれよ。オレもアメリカで、ホストファミリーにいっぱい世話になるんだから。」
「父さんは賛成だ。ただ毎日一緒に過ごすのは、母さんだから、母さん次第だな。」

「エッ、エー、母さんが決めるのー？」

私が決心する前のひとコマです。

息子にチャレンジ！チャレンジ！と言って育ててきて、私が何もしないわけにはいきません。でも、心配がありました。語学力ゼロの私自身です。南部弁どころか、生まれ育った山形弁まる出しです。それに夫は単身赴任中、週末しか家にいません。50代後半の挑戦です。母さんも新しい世界に飛び込みます。

息子が旅立ち、8月末の暑い暑い日に、カナダから笑顔のステキなエイミーが盛岡駅に降り立ちました。AFS岩手支部の方々と一緒に迎えることができ、心強かったです。この笑顔を決して絶やすことなく、ホストママとして力になれるか不安もありました。

エイミー自身は、電車通学も難なく熟し、年

度途中からの高校生活にも少しずつ慣れていきました。9月のよ市でのバザーでは、販売は苦手とあって、すぐそばでやっていたサンマの掴み取りに心奪われていました。日本語スピーチコンテストでは、「いやだー」と言いながらも、堂々とスピーチすることができました。聞いていた私たち夫婦もとてもうれしく思いました。12月のクリスマス会では秋田支部からエレナがやってきました。我が家に2泊し、夜遅くまで話していました。その間、60期冬組のこのみさんに案内してもらい、映画やプリクラなど盛岡の町を楽しんできたようでした。3月には大迫のひな祭りでお振袖を着せてもらい、「はずかしい、きれい」を連発していました。

エイミーを通して、フランスからの留学生、そしてエレナ（ロシア）との交流は、私の知らない世界への扉を開けてくれ、楽しいひとときとなりました。まだまだ身ぶり手ぶりのホストママに対して、エイミーの日本語は語彙も増え、又、漢字も覚え活用しています。

とてもシャイなエイミー、もっと積極的になって残り3ヶ月余りを悔いなく過ごして欲しいと思っています。岩手支部の皆様、ご支援下さり、ありがとうございます。又、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

アメリカ・サウスカロライナ州派遣生

中村 駿介 (不来方高校)

3月に入り、サウスカロライナはますます暑くなって来ました。学校では2学期が始まり、もうその半分が過ぎようとしています。今、僕は、生物、スペイン語、料理、数学を取っています。特に、料理は毎日何かを作ったり食べたりできるとも楽しいクラスです。日本ではあまりと言うより全くしてこなかったのが、こういう一般的なことも学ぶことができ嬉しく思っています。

学校の活動として、僕はサッカー部に参加しています。毎日練習、そして試合と忙しい日々が続いています。チームメイトみんな仲良くやっていて、とても嬉しかったことは、チームの練習着にベンガル(白虎)と刺繍されていたことです。

そのようなホントに優しく気さくなみんなと共に、東日本大震災から2回目の3月11日を迎えました。その日を迎えるにあたって、日本の担任の先生から提案を頂いて、僕はポスターを作らせてもらうことになりました。そのポスターとは、みんなから名前をポスターに書いてもらうというものだったのですが、僕がお願いするとみんな気さくに受け入れてくれました。そんなみんなに感謝です。

さて僕の留学生活も残りわずかになって来ました。この残りわずかの中で、自分のできることを少しでも多く体験して、少しでもたくさん吸収して帰って来たいと思います。

今までサポートしてくれた岩手支部の皆さんそして両親、ほんとうにありがとうございます。そしてこれからもよろしくおねがいします。



アメリカ・ウィスコンシン州派遣生

三浦 永太郎 (盛岡中央高校)

留学生活も残り100日を切りました。こちらの勉強にも慣れました。思い残す事のないように、自分の欲求に対して貪欲に取り組める積極性もついてきました。以前より自分の意見をはっきり言えるようになり、自分が良い方向に変わっていると思います。また春のスポーツとして、野球チームに入団しました。良い友にも恵まれ、週末は一緒に遊んだり、日本食を作って振る舞ったりしています。この幸せを噛み締めて生活していきます。



アメリカ・アラバマ州派遣生

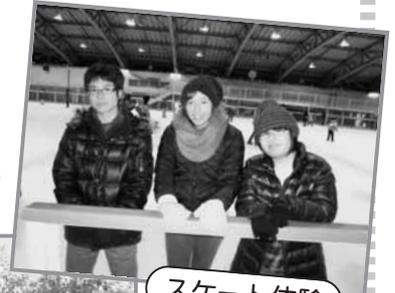
大川 裕 (八戸聖ウルスラ高校)

私は、アメリカのアラバマ州に住んでいます。9月の中旬に日本を発ってから、6ヶ月が経ちました。この6ヶ月で私が強く感じた事は、言語は私たちが生きていくうえで、とても大切だということです。アメリカに来たばかりの頃、ほとんど英語を理解する事が出来ず、学校では一人でいる事が多かったし、家でも静かに過ごす事が多かったです。しかし、何かを話さない事には何も始まらないので、周りの人のまねをしたり、授業で出て来た単語を日常の会話で使ってみたりして、自分から話す機会を増やしていきました。すると、今までほとんど一人で過ごしていた、つまらない学校生活は、友達と休み時間に笑って話が出来ると楽しい学校生活に変わり、そして、静かに過ごしていたホストファミリーの家では、日本の家族と同じように笑ったり、時には喧嘩したりと、本気でぶつかり合えるようになりました。言葉を発して相手を理解し、人の繋がりが出来ていくのだと強く感じました。残り約三ヶ月のアメリカでの生活を、自分に関わる全ての人に感謝しながら、存分に楽しみたいと思います。

フォト スナップ



9/15 支部バザー



スケート体験



4/30 支部花見会



11/23 リンゴ狩り



あの受入生は今...

ニックネーム(受入年・出身国・受入校の順)



ノート



リン

- パイ (1997年 タイ・花巻北) ...ボストン大学大学院で研究中。
- カイ (1998年 USA・不來方) ...米陸軍士官として沖縄で勤務(HF 高橋さんより)
- ダニエル (2000年 ブラジル・花巻東) ...弁護士となり活躍中(HF 滝田さんより)
- キート(2002年 マレーシア・不來方) ...医師となりマレーシアで勤務している(HF 谷村さんより)
- リン (2003年 タイ・不來方) ...建築を更に学ぶためUCパークレー大学院に留学中。
- ノート(2003年 タイ・中央) ...名門タマサート大学卒業後、日系企業で勤務している。
- ブイ (2008年 タイ・白百合) ...タマサート大学在学、現在大阪大学に留学中。
- プリン (2008年 USA・市立) ...オックスフォード大学在学中。
- イヴァン (2009年 フィリピン・不來方) ...フィリピン大学在学中
- ベン (2009年 カンボジア・一関学院) ...プノンペン王立大学在学中。
- ジュリア (2009年 イタリア・八戸ウルスラ) ...ポーロニヤ大学在学、現在スウェーデンに留学中。
- ムック (2010年 ラオス・白百合) ...国立ラオス大学在学中。

現在受入中

エイミー
(不來方高校・カナダ)

13/03/31

こんにちは。カナダから来たエイミーです。不來方高等学校の生徒です。四月になると、日本に来てから7ヶ月になります。その間に、いろんなことが好きになりました。

たとえば、相撲のシーズンだったら、毎日テレビを見るように学校から早く帰って来ました。それで相撲のことをよく知るようになりました。私の好きなお相撲さんは「鶴竜」っていうモゴゴル人です。鶴竜は強いし、カッコいいし、頑張ってるみたいです。

日本のサッカーもとても好きになりました。いつもJFAの試合を見ている。日本のチームの中で、一番上手な人は「長友」っていう人だと思います。でも、最初から好きなプレイヤーは「長谷部」でした。私の誕生日にホストファミリーから長谷部のTシャツをもらいました。とても嬉しかったです。

378 9-35 2008

それから、最近では日本のバレーボールのリーグも見えています。日本のバレーは強いし面白いし、試合を見るとバレーがやりたくなるんですね。学校で、バレー部に入ろうと思ってたんですけど、日本の部活は大変すぎて、入らないほうがいいと思いました。でも、カナダに帰ってからバレーをやってみたいです。

最後は、日本のファッションはとても大好きで、渋谷に行ったとき、日本人はめっちゃおしゃれだと思いました。そのときから、おしゃれになりたい気持ちがあって、日本の素敵な服を買って帰りたいと思っています。しかし、日本人は背が小さくて、お店の服は着れません。残念です。

七月まで、たくさんのお話を聞けるつもりです。ホストファミリーが、五月に東京へ相撲を見につれていってくれるのでとても楽しみにしています。帰る前に、友だちとたくさんのお話をしたいです。

378 9-35 2008

■2014年派遣(第61期)生 中学生・高校生募集

高校時代の留学は、異文化の中に置かれた自分を見つめて、「新しい自分を発見する旅」です。
皆さんも世界と自分を知るために応募してみませんか？

一般選考A・B日程

A日程 募集期間：4月1日(月)～6月4日(火)
試験日：6月16日(日)
選考会場：盛岡(盛岡駅西口アイーナ予定)

B日程 募集期間：4月1日(月)～7月9日(火)
試験日：7月21日(日)
選考会場：仙台

試験内容：英語筆記試験(90分)、一般教養(30分)、日本語面接(15分程度)
※英語試験はSLEPテストです。

選考手数料：20,000円(岩手県など被災地は手数料免除です)

(詳細はホームページで確認のこと)

ホストファミリー募集

AFS留学生を家庭に迎えてください。応募条件はただ一つ。「単身でないご家庭」。外国語ができなくても構いません。日本語で話しかけるだけで受け入れができます。

年間受入生(10.5ヶ月)

秋受入：2013年8月下旬～2014年7月中旬

セメスター受入生(5.5ヶ月)

秋受入：2013年8月下旬～2014年2月上旬

短期受入生(1ヶ月程度)

秋受入：2013年9月～2014年1月

詳しくはAFSのホームページで。<http://www.afs.or.jp/>

平成24年度 収支報告

収入の部		
寄付金		270,000円
会費		117,000円
その他の収入		62,080円
協会本部より		197,525円
繰越金		915,708円
収入合計		1,562,313円
支出の部		
支部管理費		257,033円
協会本部分		197,525円
次期繰越金		1,107,755円
支出合計		1,562,313円

会費等の納入ありがとうございました。

昨年度も皆様からAFS岩手支部にご支援を頂き、誠にありがとうございました。会費、ご寄付いただいた方々のご芳名を掲載させていただき、ご協力に心から感謝申し上げます。

《会費》 石渡恵利子 伊藤 勝昭 井上 義博 宇野 緑 大川 博幸 大木 謙嗣 川村 俊幸
北村 一親 工藤 重信 工藤 弘幸 小守 史子 佐藤 賢吉 千田 幸範 照井 保之
大坊 一男 中野 雄貴 中村 道典 箱崎 朋子 濱田 洋子 日向真理子 平井 博夫
廣田 清美 堀 憲一 米沢 俊一 松田 文平 御堂 怜子 村上 晶子 村中あけみ
盛島 寛 山形 士郎 山口 碧 横山 ユウ
《寄付金》 井上千恵子 藤井 博 横山 ユウ 九戸印刷 (敬称略・順不同)

会費のお願い 今年度も支部会費のご協力をお願いします。

支部会費：年3,000円(支部会員)

支部会員(支部員、派遣生保護者、リタニー及び保護者、支部活動に協賛する個人又は団体)

支部会費等振込先 ゆうちょ銀行(口座番号 10190-17982571)
(普通) (口座名義 (公財)AFS日本協会岩手支部)

■ご寄付のお願い■ AFSは国際理解教育を推進しています。10代の高校生をはじめとしたより多くの人々に、異なる文化と接する機会を提供できるよう、AFSの活動にご支援を賜りたくよろしくお願い致します。

【ご寄付の方法】(公財)AFS日本協会(支部を含む)への寄付はいくらからでもしていただけます。

※詳しくはAFSのホームページをご覧ください。

「みちのく応援奨学金」の奨学生募集

みちのく応援奨学金	ジャパン・リサエティーみちのく応援奨学金	JFAMみちのく応援奨学金
【対象者】 世界約40カ国に留学希望の高校生(2名)	【対象者】 アメリカに留学希望の高校生(4名)	【対象者】 世界約40カ国に留学希望の高校生(1名)
【留学期間】2014年の約10カ月間のホームステイ及び高校通学		
【支給額】AFS年間派遣プログラム参加費+諸雑費の合計150万円		
【応募条件】震災時、青森県・岩手県・宮城県・福島県の全域に居住または在学していた生徒で、一般選考AまたはB日程を受験し受入国が内定した者。		
※奨学金申し込みは、「AFS年間派遣第61期選考A・B日程」の通過者に案内する。		